

第3回 スポーツ医・科学拠点整備にかかる有識者懇談会
＜参考資料＞

参考1 第2回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要 …P. 1

参考2 市のスポーツ施設配置状況等について …P. 5

参考3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み …P. 7

第2回 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

日時：令和7年8月20日(水)午前9時30分～午前11時30分
会場：市役所西庁舎12階 西12D会議室

1 出席者

【委員】（五十音順・敬称略）

所属・役職等	氏名
中京大学スポーツ科学部 准教授	倉持 梨恵子
日本福祉大学 大学院スポーツ科学研究科 健康科学部リハビリテーション学科 教授	小林 寛和
中部大学生命健康科学研究科 保健医療学専攻 准教授	松村 亜矢子
名古屋市立大学整形外科 主任教授	村上 英樹
名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学寄附講座 准教授	吉田 雅人

【行政関係者】

所属・役職等		氏名
スポーツ市民局	スポーツ推進部 部長	石原 治
	スポーツ推進部 担当課長	杓名 大介
	スポーツ推進部スポーツ振興課 課長補佐	増田 大樹

2 会議次第

1	開会
2	参考資料 （1）第1回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要 （2）令和7年度 第2回 ネット・モニターアンケート結果(概要) （3）他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み
3	議題 （1）スポーツ医・科学施設の主な機能について （2）メディカル機能の望ましいあり方について （3）スポーツ医・科学拠点となる施設の必要性について （4）スポーツ医・科学施設の候補地の考え方について
4	閉会

3 議事概要

参考資料

参考 1 第 1 回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

○特になし

参考 2 令和 7 年度 第 2 回 ネット・モニターアンケート結果(概要)

○「運動・スポーツ」とあるが、この表現は今後も使うのか。

○スポーツ実施率の向上を考えると、運動・スポーツをしていないと 回答した 30.5%の方が、いわゆる無関心期にあたるのか、準備期に入っているのか、もし分析ができれば 30 代、40 代にどう働きかけるかについても見えるのではないかな。

参考 3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

○特になし

議題

(1) スポーツ医・科学施設の主な機能について

○メディカルチェックについて、症状がない人に対しては保険診療にならないと思うので、パッケージの内容や料金設定が課題。何が改善したかの効果分かるように、何度か継続して受けていただける設定を考える必要がある。

○「安全・健康で継続的・効果的なスポーツの実施」と「競技力の向上」で分けることは難しいのではないかな。メディカルチェックは競技力の向上でも必要であるし、栄養や心理も健康増進で必要になるため、同一の取り組みを深度で分けるような観点が必要かなと思う。

○全体でコース別というイメージで考えるとよいのでは。

○女性サポートの項目も入れていただきたい。サポートを考えるうえで、婦人科の要素は必要になる。

○高齢者が多く、要介護状態になる一番の要因が認知症なので、認知症などのチェックもできれば。

○測定員やトレーナーといった専門人材の詳細は、また次回に向けて具体的な資格を整理していくということによいか。

(2) メディカル機能の望ましいあり方について

○手術、入院までの対応は現状だと非現実的だが、全くやらないとなれば独自性も出しにくく、ある程度の医療機能を持って進めていくのが望ましい。

○個人的には、他でやっていない特徴的な保険外診療も取り入れることができれば、より特徴のある施設となるのではないかな。

○自由診療はなかなか大学病院ではできないので、例えばスポーツ愛好家の高齢者の方に再生医療を提供したりすることが出来ればと思う。

- 競技によって怪我の仕方や病気も変わってくるので、どこまで対応ができるかとは思う。
- 医療機能は確実に必要。中心は整形外科や内科になると思うが、婦人科や心療内科、脳神経外科、歯科などスポーツに関係する診療科は多い。少なくとも、不調を訴えた方を入口できちんと診断して、振り分ける機能は必須だと思う。
- 表について、身体活動強度のレベルを縦軸にして、右肩上がりのグラフとした方が分かりやすいのではないかな。
- フィジカルチェックを経たうえで、トレーニング指導、エクササイズ指導、コンディショニング・リコンディショニングに進んでいくため、フィジカル・フィットネスチェックの下側にそういった内容を入れられるとよい。
- リハビリテーションにおけるメディカル／アスレチックの区別はなかなか難しく、メディカルチェックについても医療行為でないものもあると思うので、内容の説明をまた別途記載してもらえるとよい。

(3) スポーツ医・科学拠点となる施設の必要性について

- 既存のスポーツ施設にとってスポーツ医科学の拠点のような位置づけとして、スポーツセンターの活性化にも繋がればと思う。名古屋市はなかなか充実した施設配置になっていると思うが、他の政令市のスポーツセンター等の配置状況が分かればまた教えてほしい。
- 運動プログラムを提案しても継続しない現状もあり、各区のスポーツ施設と連携して、住まいに近い施設で継続する循環ができれば一番よい。
- 次回に向けて、市のスポーツ施設にどのような人員が配置されていて、どのようなプログラムが実践されているかがわかると議論しやすいのではないかな。

(4) スポーツ医・科学施設の候補地の考え方について

- 各区のスポーツセンターと連携するのであれば、市の中心部が望ましいのではないかな。
- 愛知県にはプロスポーツチームや社会人チームも多く、自動車でのアクセスも見込んで駐車スペースも一定必要になる。
- 医療を行うという方向性があるのであれば、核となる医療機関に近く、連携が取りやすいというのは重要な要素になるのではないかな。
- アスリートはとにかく短い期間で復帰したいので、他の医療機関との連携は大事になってくる。

その他

- 「スポーツ医・科学」という表現に違和感がある。「スポーツ医科学」という単語で成立するので、区切る必要はないのでは。
- スポーツによる身体の不調を感じた際に、一般の方が最初にどの機関を選択し

ているのかがわかるとよい。接骨院や鍼灸院が多いのか、医療機関に受診する
ならどんな条件なら受診しやすいか。

○病院を受診するというのは敷居が高い面もあり、受診せずに適切な治療ができ
ないこともあるので、受診しやすいことは重要。

○劇団やダンス、サーカスなどもスポーツ選手のようなトレーニングをして身体
を痛めることがあり、スポーツではないかもしれないが、スポーツに近いこと
をしている方々も来られる施設になればと思う。

市のスポーツ施設配置状況

(スポーツ市民局所管分)

参考2-1

黒川スポーツトレーニングセンター

ト 軽

名城庭球場

テ

枇杷島スポーツセンター

競 温 ト 軽 弓

中村スポーツセンター

競 温 ト 軽 弓

中スポーツセンター

競 温 ト 軽

鶴舞公園多目的グラウンド

富田北プール

温

露橋スポーツセンター

競 温 ト

富田プール

冷

中川プール

冷

南陽プール

温 ト 軽

稲永スポーツセンター

競 ト 軽 弓

港サッカー場
サッカー場

港プール

冷

鳴海プール

温

日本ガイシアリーナ

温 軽 弓

日本ガイシホール

競 温 ト ア

金城ふ頭アリーナ

競

北スポーツセンター

競 温 ト 軽 弓

楠プール

冷

守山プール

冷

志段味スポーツランド

競 ト 軽 テ

守山スポーツセンター

競 温 ト 軽

香流橋プール

温

上社レクリエーションルーム

軽

障害者スポーツセンター

温 ト

名東スポーツセンター

競 温 ト 軽

千種スポーツセンター

競 温 ト 軽 ア

昭和スポーツセンター

競 温 ト 軽

東山公園テニスセンター

テ

天白スポーツセンター

競 温 ト 軽 弓

瑞穂運動場

競 温 ト ア 弓 テ 冷

緑スポーツセンター

競 温 ト 軽 弓

各スポーツ施設における主な機能

凡例

競	競技場	ア	アーチェリー場
温	温水プール	弓	弓道場
ト	トレーニング室	テ	テニスコート
軽	軽運動室	冷	冷水プール

市スポーツセンターにおける取り組みについて

参考2-2

配置している人材

○トレーニング室運営責任者(施設専任)

資格名	資格認定者
健康運動実践指導者	(公財)健康・体力づくり事業財団
スポーツプログラマー	(公財)日本スポーツ協会
トレーニング指導士	(公財)日本スポーツ施設協会

○プール運営責任者(施設専任)

資格名	資格認定者
水泳指導管理士	(公財)健康・体力づくり事業財団
水泳コーチ1	(公財)日本スポーツ協会
水泳コーチ3	
水泳教師	

※それぞれ、いずれかの資格、又は同等以上の資格を有する人材を1名以上配置している

実施している教室の例

①子どもが多様なスポーツに接することのできる教室

- ・親子de運動遊び
- ・ジュニアふれあい陸上教室
- ・キッズ体操
- ・ジュニアドッチボール教室
- ・ジュニアスイム
- ・ジュニアバスケット教室

②子育て世代が気軽に参加でき、自宅でも継続して実施できる教室

- ・赤ちゃんと一緒に産後改善エクササイズ
- ・おやすみヨガ
- ・おやこでキッズリズム体操(託児付き)

③働く世代が参加しやすい教室

- ・大人のためのサッカークリニック
- ・バドミントン教室
- ・H I I T(高強度インターバルトレーニング)
- ・疲労回復! リラックスヨガ

④高齢者がその健康状態や体力に応じて楽しめる教室

- ・スイム&ウォーキング教室
- ・健康体操教室
- ・姿勢改善ストレッチ教室
- ・体力測定&ウォーキング講座

⑤障害者を対象とした教室

- ・障害者対象スポーツ体験教室「わくわく運動教室」
- ・ソフトバレーボール体験教室
- ・エンジョイ! ボッチャ

⑥障害の有無や年齢、性別等に関係なく、誰もが楽しめるよう場所や道具、ルールを工夫して行うユニバーサルスポーツ教室

- ・ニュースポーツを楽しもう~ボッチャ~
- ・みんなのスポーツ(モルック・ボッチャ)

⑦その他

- ・スポーツにおける障害と予防
- ・整形外科医によるセミナー及び実技教室
- ・トライアングル健康アシストビレッジ
(ヨガ講師・ピラティス講師・管理栄養士)

※令和6年度において指定管理業務で実施した講座、教室等

他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

参考3-1

区 分	横浜市スポーツ医科学センター	新潟県健康づくり・ スポーツ医科学センター	京都府トレーニングセンター
運営体制	指定管理者 (公財)横浜市スポーツ協会	指定管理者 (公財)新潟県スポーツ協会	指定管理者 (公財)京都府立丹波自然運動公園協力会
立地	横浜市港北区小机町3302-5 (日産スタジアム内) JR新横浜駅より路線バス約5分	新潟市中央区清五郎67番地12 (デンカビッグスワンスタジアム内) JR新潟駅より路線バス約14分	京都府船井郡京丹波町曾根崩下代110-7 (京都府立丹波自然運動公園内) JR山陰本線 園部駅より路線バス約20分
延床面積	12,300㎡	6456.91㎡	5499.12㎡
諸室	■診療所 医事事務室、相談室(4室)、診察室(5室)、 超音波室・心電図室、検体検査室、体力測 定室、動作分析室、運動負荷試験室、X線 撮影室・MRI室、理学療法室 ■運動施設等 プール、スイミル、更衣室、アリーナ (大・小①②)、トレーニングルーム	■診療所 診察室、生化学検査室、X線測定室、骨密 度測定室、リハビリテーション室、運動 負荷試験室、体力測定室 ■運動施設等 実技指導室、ホール(ヘルスチェック・ フィットネス)、研修室(小①、小②、中、 大)、栄養実習室、メンタル指導室、 情報コーナー、温水プール(休止中)	■運動施設等 トレーニングルーム、パフォーマンス ルーム、測定室、コンディショニング ルーム、動作分析室、研修室 ■宿泊棟
メディカル 機能	■外来診療 内科(3,194人)・整形外科(24,974人) リハビリテーション科(48,269人) 週5日 午前・午後 ※内科は週4日 ■メディカルチェック ■運動療法	■外来診療 内科(154人)・整形外科(1,413人) リハビリテーション科(1,034人) 内科は月2日・他2科は週3日(午後のみ) ■メディカルチェック ■運動療法	■外来診療なし スポーツ医事相談(月1日)(346人)
主な 専門職等	医師(内・整形)、臨床検査技師、看護師、保 健師、管理栄養士、放射線技師、理学療法士	医師(内・整形)、臨床検査技師、看護師、保 健師、管理栄養士、放射線技師、理学療法士	医師(整形)、管理栄養士
フィットネス チェック機能	■体力測定(3,853人、内アスリート2,835人) ■トレーニング指導	■体力測定(546人、内アスリート468人) ■トレーニング指導	■体力測定(2,436人) ■トレーニング指導
その他 サポート	■栄養指導 ■動作分析、フォーム撮影 ■指導者研修・講習会 ■講座・講演・教室・イベント等	■栄養指導、メンタルサポート ■動作分析 ■指導者研修・講習会 ■講座・講演・教室・イベント等	■栄養指導、メンタルサポート ■動作分析、映像サポート ■指導者研修・講習会(各種講座を含む) ■講座・講演・教室・イベント等
特徴	・豊富な医療人材による外来診療 ・生活習慣病等への運動療法のメディカルエ クササイズコース(MEC)を実施 ・問診・メディカルチェック・体力測定等で 健康状態を総合的に把握し、アドバイスを 提供(SPS) ・競技場や公園等の近隣施設を活用した運動 プログラムの実践 ・HPSCネットワーク連携機関	・生活習慣しかり改善コースや健康サ ポートコースなど、健康増進を目的とし たプログラムを提供 ・児童・生徒に対し、基本的な食事やトレ ニング講習会・簡易測定とフィードバ ックをセットにしたケアコンディショ ニングサポートを実施 ・HPSCネットワーク連携機関	・専門業務が複数可能な常勤職員による パッケージでのサポートを提供 ・ジュニアアスリート育成プロジェクト、 小中学校運動能力等サポート事業など 地域との連携事業を実施 ・宿泊施設を活用したサポート ・HPSCネットワーク連携機関

※名古屋市調べ

() 内の人数は対応実績(横浜市は令和6年度、新潟県及び京都府は令和5年度)

各都道府県における取組状況⑧〈横浜市スポーツ医科学センター〉

〈横浜市スポーツ医科学センターの場合〉

診療部：スポーツ医学スタッフ 34名（うち常勤21名） ●スポーツ医科学専門職の人員体制 50名（うち常勤32名）

医師常勤 5名（内科2名、整形外科3名）

看護師 5名（うち常勤2名）

理学療法士 16名（うち常勤10名、JSPQ-AT9名）

診療放射線技師 3名（うち常勤1名）

臨床検査技師 3名（うち常勤2名）

管理栄養士 2名（うち常勤1名）

スポーツ科学部：スポーツ科学スタッフ 16名（うち常勤11名）

スポーツ科学員常勤 4名

指導員 12名（うち常勤7名、健康運動指導士5名）

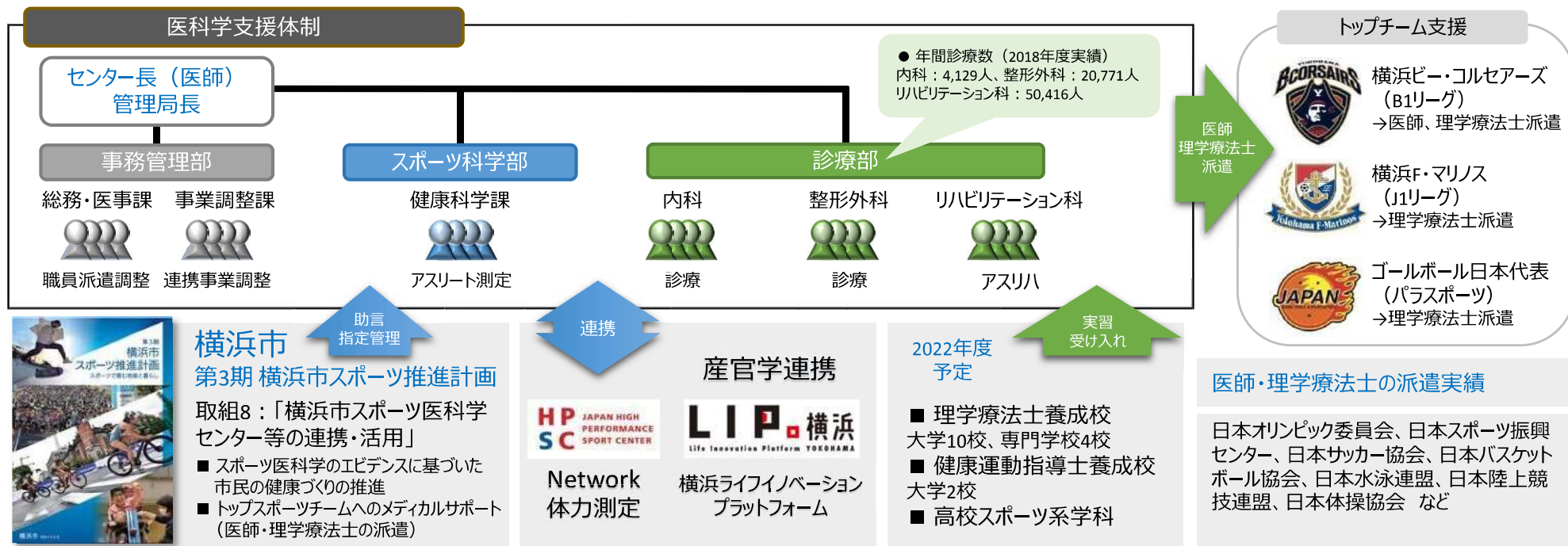
●各部・各科担当者において外部との意見交換等を行い、適宜協定を結ぶことで組織として外部との連携を実施。

診療部の外部連携

トップアスリートへのメディカルサポート（クリニック受診、メディカルスタッフ派遣）、大学・高校等への運動部学生への支援（ケガ予防の運動指導、身体面の相談、トレーナー教育）

スポーツ科学部の外部連携

HPSCネットワーク連携機関（体力測定）に指定



各都道府県における取組状況③〈京都トレーニングセンター〉

《京都トレーニングセンターの場合》

- 常勤スタッフ6名（教育委員会から出向1名含む）、非常勤スタッフ2名（医師1名含む）
- 京都トレーニングセンターのスタッフにて少人数ながら多領域サポート体制を構築。スタッフは、JSPO-AT、管理栄養士、スポーツ心理スタッフ、健康運動指導士、NSCA-CSCS、JATI-ATI等の有資格/経験者を配置。必要に応じて、関西圏の大学教員等に協力要請を行う。
- センター長に元JISSスタッフ/元オリンピックスタッフ/パラ団体・個人に対するスポーツ医・科学支援経験/他県でのスポーツ医・科学支援経験/企業との共同研究経験者を配置。
- 「スポーツ医・科学」を切り口に自治体（京都府、地元市町村、他府県）や大学、企業（経済団体含む）と連携・協働し、個々のプロジェクトごとに常勤スタッフで対応。

